

令和5年度 第3回下野市教育委員会定例会議事録

日 時	令和5年6月19日（月）午後1時30分～午後4時10分			
会 場	下野市役所3階 303会議室			
出席委員	教 育 長	石崎 雅也	職務代理者	永山 伸一
	委 員	石嶋 和夫	委 員	佐間田 香
	委 員	川田 玲子		
出席職員	教育次長		近藤 善昭	
	教育総務課長		高山 正勝	
	学校教育課長		石島 直	
	生涯学習文化課長		根本 宣明	
	文化財課長		山口 耕一	
	スポーツ振興課長		伊藤 隆行	
	教育総務課課長補佐		平野 享	
	教育総務課主査		若林 達哉	
	教育総務課主事		慶留間 遥	

公開・非公開の別 公開（一部非公開）

傍 聴 者 0 人

報道機関 0 人

議事録（概要）作成年月日 令和5年7月18日

教育長の報告

報告第17号	下野市教育委員会後援名義等使用の承認等の状況について
報告第18号	寄附の受入状況について
報告第19号	令和5年度下野市教職員合同全体研修会について
報告第20号	令和5年第2回下野市議会定例会の報告について

議 事

議案第17号	下野市小中一貫教育推進協議会委員の委嘱について
議案第18号	下野市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱又は任命について
議案第19号	下野市いじめ問題専門委員会委員の委嘱について
議案第20号	下野市公民館運営審議会委員の委嘱について
議案第21号	下野市教育支援委員会条例施行規則の一部改正について

協議事項

協議第7号 第16回下野市教育のつどいについて

協議第8号 下野市環境審議会委員の推薦について

その他

(1) 細谷小学校 学校訪問について

1. 開会

(石崎教育長)

ただいまから、令和5年度第3回下野市教育委員会定例会を開会する。

2. 教育長あいさつ

(石崎教育長)

5月15日から本日6月19日までの職務について報告する。

- ・ 5月17日、国分寺学校給食センターを訪問した。
- ・ 5月18日、石橋公民館において下都賀地区社会教育指導員連絡協議会総会が行われた。
- ・ 5月20日、細谷小学校並びに南河内小中学校において運動会が開催された。
- ・ 5月21日、市スポーツ協会定期評議員会総会及び懇親会が行われた。
- ・ 5月22日、県庁本館において第1回人事問題協議会が開催された。
- ・ 5月23日、国分寺小学校において5年生を対象に英語でコミュニケーションDAYを開催した。
- ・ 5月24日、議員全員協議会が行われた。
- ・ 同日、下野市と栃木SCによる地域支援パートナーシップ協定締結署名式が行われた。
- ・ 5月26日、加須文化・学習センター「パストラルかぞ」において、関東甲信越静岡市町村教育委員会連合会総会及び研修会（埼玉大会）が開催された。
- ・ 5月27日、別処山運動公園において第41回下野ライオンズ杯争奪学童野球大会が行われた。
- ・ 5月31日、令和5年第2回市議会定例会が開会した。
- ・ 6月1日、下野市出身プロレスラー羽南選手、妃南選手姉妹が市長を表敬訪問した。
- ・ 6月2日、市議会一般質問が行われた。
- ・ 6月5日、第1回教科書選定委員会を開催した。
- ・ 6月6日、祇園小学校を訪問した。
- ・ 6月8日、第2回市小中学校教頭研修会を開催した。
- ・ 6月9日、石橋中学校においてふくべ細工体験活動を実施した。
- ・ 6月10日、白鷗大学教員研修リレー講座が開催された。
- ・ 6月13日、議員全員協議会が行われた。
- ・ 6月14日、小山市文化センターにおいて部落解放愛する会県連合会第48回定期大会が開催された。
- ・ 同日、第3回下都賀地区教育長部会が開催された。
- ・ 6月15日、令和5年度第2回市議会定例会が閉会した。

- ・ 6月16日、教職員評価管理職当初面談として、各校校長、教頭と面談を行った。
- ・ 6月18日、大松山運動公園、国分寺運動公園において、市民体育祭関連事業テニール大会を開催した。

以上の報告内容について、質疑等はあるか。

(石嶋委員)

学校における新たな人事異動の仕組が協議されたようであるが、この仕組みに則ることが管理職登用の条件になることはあるのか。

(石崎教育長)

管理職登用には影響しない。仕組みとして、異動のローテーションが早まるとのことだが、学校の実情に応じて年数が伸びることも考えられる。

他に質疑等はあるか。(特になし)

3. 議事録署名人の選任 永山委員及び佐間田委員を指名

4. 前回議事録の承認

(石崎教育長)

前回議事録について、事務局に説明を求める。

(平野教育総務課課長補佐)

令和5年度第2回教育委員会定例会議事録の修正箇所について報告を行う。

(石崎教育長)

質疑等はあるか。(特になし)

議事録はこのとおり決定とする。

5. 教育長の報告

(石崎教育長)

報告第17号、下野市教育委員会後援名義等使用の承認等の状況について、説明を求める。

(高山教育総務課長)

令和5年6月現在、4件の後援承認をした旨、説明を行う。

(石崎教育長)

質疑等はあるか。(特になし)

続いて、報告第18号、寄附の受入状況について、説明を求める。

(高山教育総務課長)

東京海上日動火災保険株式会社から、市内研修所の閉鎖に伴い、市内小、中、義務教育学校に、防災備蓄品である飲料水1,194本、カンパン3,520パック、簡易トイレ3,600個の寄附があった旨、報告を行う。

(石崎教育長)

質疑等はあるか。(特になし)

続いて、報告第19号、令和5年度下野市教職員合同全体研修会について、説明を求める。

(石島学校教育課長)

資料を基に、令和5年度下野市教職員合同全体研修会の日程、開催方法、会場及び予定演題について説明を行う。

(石崎教育長)

質疑等はあるか。

(佐間田委員)

今回の演題がジェンダーに関することということで、一点述べたい。先日子どもから「先生から『男の子はこっち、女の子はこっち』という分け方をされるのがすごく不思議だ」というような話をされた。具体的には、体育の授業において、男子生徒はプール、女子生徒は体育祭のダンスを考える、というように分けられたそうで、なぜ男女で授業内容を分ける必要があるのかと疑問に思っているようであった。

(石島学校教育課長)

学習指導要領に基づくと、子どもたちの発達段階や運動能力が違うということで、男女別に学習するカリキュラムもある。しかし最近では、男女共通で行う内容も増えてきているため、全てを男子と女子で分けているわけではない。

(佐間田委員)

「男の子」「女の子」という言葉を使われることに疑問を感じているのかもしれない。

(石崎教育長)

中学校において、2クラス同時にプールに入ることはできるのか。

(石島学校教育課長)

小学校はチーム制で体育を実施することがあるため、2クラス同時に行うこともある。職員数等の関係で、学校裁量にはなるかと思う。

(石崎教育長)

中学校では、生徒の体の大きさやプールの広さを考慮すると、2クラス同時に実施することには無理があるのか。

(石島学校教育課長)

それも男女で授業を分けている理由であると考え。人数が半分になることにより、男子がプール、女子がダンスの授業を受け、続いて女子がプール、男子がダンスの授業を受けるといった形で、カリキュラム上、男女ごとにまとまることにより、行動をしやすくするのは、特に中学校ではあるのではないかと思う。

(石崎教育長)

それが今までの授業の行い方であった。しかしジェンダーの面について考慮するならば、体育を全てクラスごとに実施するといった考え方も必要になってくるかと思う。

(石島学校教育課長)

今後の対応について考えていくための研修であるため、教育委員会事務局側も勉強していきたいと考える。

(石崎教育長)

他に質疑等はあるか。(特になし)

続いて、報告第20号、令和5年第2回下野市議会定例会の報告について、教育次長から説明する。

(近藤教育次長)

資料を基に、令和5年第2回市議会定例会の日程、教育委員会関係議案、教育委員会関係一般質問について説明を行う。

(石崎教育長)

質疑等はあるか。

(佐間田委員)

不登校関係のことで二点述べたい。まず一点目として、以前不登校の児童生徒の保護者の方々と話をしたとき、他市町では不登校の児童生徒の割合を公表しているのに、下野市ではなぜ

公表しないのか、公表してほしいというような話があった。

二点目として、不登校あるいは不登校傾向にある児童生徒が外来患者として病院に来ることが増えてきており、その際、今勉強はどうしているのか、一人一台端末のタブレットは家に持ち帰っているのかと聞くと、持ち帰ることができていないようであった。学校に行くことができる日が少なく、学校の授業についていけないというようなことも話しており、学校に来ることができる日とできない日がある児童生徒については、学校側からタブレットに関するアプローチをする必要があるのではないか。本人としては、タブレットにより学校とつながっていること自体がストレスに感じるのかもしれないが、つながっていることで学校から何かアクションを起こすことができるかもしれない。本人の状況にもよると思うが、タブレットを全く持ち帰っておらず、勉強も全く進んでいないという児童生徒もいたため、何か対応ができないかと感じている。

(石島学校教育課長)

まず、不登校の児童生徒数のデータについて、下都賀地区の市町教育委員会においては公表していない。しかし、市独自の調査は行っており、状況把握は行っている。

また、不登校対策として、先ほど佐間田委員が述べたようなタブレットの持ち帰りについて、担任からアプローチは行っている状況である。持ち帰りを希望する児童生徒もいるが、学校とのつながりを遮断したい児童生徒に関しては持ち帰りを勧めることが難しく、勉強面が遅れてしまうという可能性はある。なお、タブレットを使用するが学校とはつながらない学習方法として、タブレット内の学習システムの中の各教科のシートを活用し、個人で学習を進めるという方法がある。

(佐間田委員)

それは各家庭のパソコンでも使用できるのか。

(石島学校教育課長)

学校の一人一台端末でのみ使用できる。そのため、基本的には持ち帰ってもらうことを前提で進めているところである。不登校対策については、今後更なるICT機器の活用が必要になるかと思う。検討を進めていきたい。

(石崎教育長)

他に質疑等はあるか。

(永山委員)

不登校に関してということで、私も一点述べたい。スマイル教室について下野市のホームページで探したところ、ページの中にPDFのリンクが貼られただけの簡単なものであった。確かに案内はあるのだが、本来ならばスマイル教室の案内や「不登校に悩んだらこのようなフローで相談してください」「このような準備を市は行っています」という内容を、リンクではなくページとして、丁寧に記していなければ、保護者の方々が困るのではないか。

(石島学校教育課長)

現在、市内の学校に特化したホームページと、市の行政関係

が中心のホームページの2つがあり、記載内容の整合性を高めるために見直しを行っているところである。確かにスマイル教室についての記載は簡単なものになっていたため、こちらも見直したい。

(永山委員) 自分子どもが不登校傾向にあり、どうしようか悩んだ際、真っ先に確認するのは下野市のホームページであると思う。下野市はどのような対策をしているのか確認しようとしたとき、PDFしか出てこないのは不親切であり、印象としてそれほどしっかり不登校対策を行っているようには見えなくなってしまっていると感じるため、より分かりやすいフローチャートや、スマイル教室の説明を一目で確認できるようなホームページ作りを心掛けてほしい。

(佐間田委員) 私立学校に進学した後、学校に行くのが辛くなってしまう児童生徒も多いようである。学校教育サポートセンターは市内の小、中、義務教育学校の児童生徒を対象にしていると思うが、市に在住しており、私立の学校に通っている児童生徒は利用できないのか。

(永山委員) 資料を確認したところ、私立学校に通う市内在住の児童生徒も対象とするという記載があった。しかしこれも分かりにくかったため、こういった内容もホームページに分かりやすく記載するのが良いかと思う。

(佐間田委員) 永山委員が述べたとおり、ホームページに保護者向けのフローチャート等が記されていると、保護者の方は助かるのではないかと思う。

(石嶋委員) 高校生が学校教育サポートセンターを利用することは可能なのか。

(石島学校教育課長) 高校生については、下都賀教育事務所のいじめ・不登校等対策チームの相談窓口を案内している。なお、高校1年生に関しては、スマイル教室に通っていた生徒であれば相談に乗るということに対応している。

(佐間田委員) 高校生に関しては、とちぎ健康の森にサポートセンターがあるというようなことを聞いたことがある。

(石嶋委員) 以前、別の市町教育委員会で勤務にあたっていた際、高校生の保護者の方から相談をいただいた。当時、高校は小学校、中学校のような積極的な不登校への対応をとっておらず、そのため保護者の方も、どこに相談していいかが分からない状況であり、非常に困っていた。

(佐間田委員) 今でも、保護者の方のほうに追い込まれているのではないかと心配になるような家庭もある。

(石嶋委員) まず保護者の方の不安感を取り除く必要がある。保護者が精神的に追い込まれてしまうと、子どもも保護者も一緒に追い詰

- められるという悪循環が生まれてしまう。下都賀教育事務所の方で対応をするとのことだが、電話での相談だけになるのか。
- (石島学校教育課長) 基本的には電話での相談業務が中心になるかと思う。詳細については把握できていない。
- (石嶋委員) 保護者の方の安心を得るためには、やはり求められれば、対面での相談等も受け入れられるようにしなければならないのではないかと感じる。
- (佐間田委員) 教育委員会か、福祉部局になるかは分からないが、そういった相談窓口は必要であると考えます。
- (近藤教育次長) 石嶋委員、佐間田委員から質疑があった、高校生の不登校対応について、今回の一般質問で答弁を行った。小学生、中学生だけでなく、大人も含めた総合的な支援体制の整備を実施するとして、健康福祉部において令和6年度から「重層的支援体制整備事業」という事業を開始する。そこで高校生に対する相談体制等も構築されていくと考えられる。
- (石崎教育長) 下都賀教育事務所も、電話だけではなく実際に来所しての相談に応じているが、専門機関の紹介を行うような形で対応しているとのことである。他に質疑等はあるか。
- (佐間田委員) 保護者が最も不安に感じるのは、不登校になったときよりもむしろ、子どもが学校を休みがちになり「もしこのまま学校に行けなくなったらどうしよう、不登校になったらどうすれば良いんだろう」と考えるときなのではないか。そういった際、先生と顔を合わせて、これからの対応について相談ができると、少し安心できるのではないかと考える。
- (川田委員) 子どもが何日か学校を休むと「この後学校に行けなくなってしまいうんじゃないか」と思い、最初は何とか学校に行かせようとする保護者が多い。しかし、子どもが苦痛を感じているのに無理やり学校に連れていくというのはどうなのかと思い、休ませる方もいる。すると、子どもの心は安定するが、保護者は逆に「次はいつ学校に行けるんだろう」と不安になってしまう。そのため、保護者の方に対してもサポートが必要であると考えます。
- (永山委員) 親にも本当のことを言えず、先生にも本当のことを言えないような児童生徒もいる。そこでもう一人の役者、第3の居場所としてのスマイル教室があるのだと考える。
- (川田委員) 児童生徒一人一人によって、自分の本音や思っていることを話すことができる相手は違う。先生も一人一人をよく見て、探り探りで言葉を選び対応しているのではないかと思います。
- (佐間田委員) 先生方も対応に苦慮する部分ではないかと思う。
- (永山委員) 場合によっては、本当の原因が自分でも分からないという子もいる。分からないため、別の言葉で説明しようとし、上手く

伝わらないこともある。

(石嶋委員)

私は、学校における業務負担軽減の結果、児童生徒一人一人に丁寧に対応するという意識が、教員の中で薄れていってしまうのではないかと心配である。今まではコロナ禍により、不登校対応としての家庭訪問等はできないことが多かったと思うが、学校の先生が家庭訪問をし、声掛けをするだけでも「見捨てられていない」と感じる児童生徒もいる。不登校の児童生徒への対応について、学校において再度確認する必要があるのではないかと考えている。

(石崎教育長)

コロナ禍以前のように、家庭訪問の実施も状況としては可能になると考える。他に心配な点があれば、学校教育課に連絡してほしい。

続いて、議事に移る。

6. 議事

(石崎教育長)

ここで諮る。議案第17号から議案第20号までについては、人事に関する案件であるため、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項」の規定により、非公開として進めたいと思うが、よろしいか。(全委員異議なし)

それでは、議案第17号から議案第20号について非公開として進める。

まず、議案第17号、下野市小中一貫教育推進協議会委員の委嘱について、説明を求める。

以下、非公開

(石崎教育長)

議案第17号を決定してよろしいか。(全委員承認)

議案第17号は原案どおり決定する。

続いて、議案第18号、下野市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱又は任命について、説明を求める。

以下、非公開

(石崎教育長)

議案第18号を決定してよろしいか。(全委員承認)

議案第18号は原案どおり決定する。

続いて、議案第19号、下野市いじめ問題専門委員会委員の委嘱について、説明を求める。

以下、非公開

(石崎教育長) 議案第19号を決定してよろしいか。(全委員承認)
議案第19号は原案どおり決定する。
続いて、議案第20号、下野市公民館運営審議会委員の委嘱
について、説明を求める。

以下、非公開

(石崎教育長) 議案第20号を決定してよろしいか。(全委員承認)
議案第20号は原案どおり決定する。
ここで非公開を解く。
続いて、議案第21号、下野市教育支援委員会条例施行規則
の一部改正について、説明を求める。

(石島学校教育課長) 資料に基づき、下野市教育支援委員会条例施行規則の一部改
正内容について説明を行う。

(石崎教育長) 質疑等はあるか。(特になし)
議案第21号を決定してよろしいか。(全委員承認)
議案第21号は原案どおり決定する。
続いて、協議事項に移る。

7. 協議事項

(石崎教育長) 協議第7号、第16回下野市教育のつどいについて、説明を
求める。

(高山教育総務課長) 第16回下野市教育のつどいについて、開催日時、開催場所、
内容等について説明を行う。また、記念講演等における講師等
の選定について協議をお願いする。

(石崎教育長) それでは質疑等はあるか。
永山委員をお願いする講評は、式典全体に対する講評でよろ
しいか。

(高山教育総務課長) そのとおりである。式典全体への講評及び記念講演等に対す
る謝辞等を併せて行っていただきたく考えている。

(石崎教育長) 記念講演等については、例年講師等を教育委員の皆様推薦
いただいている。適当な方がいれば挙げていただきたい。

(佐間田委員) 令和元年度に依頼した、小山工業高等専門学校教授の方は
どうか。また、学習関係に絞らないならば、児童生徒向けにシ
ャボン玉ショーの公演者に依頼するのも良いかと思う。

(川田委員) 昨年度が音楽関係の講師であったため、今年度は音楽関係で
はない方が良く思う。

(石崎教育長) 事務局から提案はあるか。

(根本生涯学習文化課長) 市民協働推進課所管の「協働のまちづくり人材バンク」の登
録者として2名ほど提案することが可能である。

- (山口文化財課長) 以前益子町で講演を聞いた、前文化庁長官の方のお話は非常に興味深いものであった。
- (石崎教育長) 輝け下野エール大使の永井壘氏や、先日市長を表敬訪問した下野市出身女子プロレスラーの方もよろしいかと思う。
今回挙がった候補者について検討し、講師等の選定を進めるよう、事務局に求める。
続いて、協議第8号、下野市環境審議会委員の推薦について、説明を求める。
- (高山教育総務課長) 下野市環境基本条例第26条の規定により、下野市環境審議会委員として下野市教育委員会委員を推薦することについて下野市長から依頼があったため、委員会の協議を求めるものである。市では、環境に関する重要施策の実施にあたり、調査及び審議する機関として、公募市民等で構成される下野市環境審議会を設置している。令和5年3月31日で委員の任期2年が満了したため、教育関係者としての委員1名の推薦をお願いするものである。任期は委嘱の日から令和7年3月31日まで、開催回数は年2回程度となっている。
- (石崎教育長) 川田委員にお願いしてよろしいか。
(川田委員) 了承した。
(石崎教育長) 委員の皆様よろしいか。(全委員承認)
下野市環境審議会委員に、川田委員を教育委員会から推薦することで決定した。
続いて、その他に移る。

8. その他

- (石崎教育長) (1) 細谷小学校 学校訪問について、説明を求める。
(高山教育総務課長) 細谷小学校学校訪問の日程、集合時間、訪問予定者等について説明を行う。
- (石崎教育長) 質疑等はあるか。(特になし)
それでは、私から一点提案する。これまでは年間4校で学校訪問を行っていたが、南河内小中学校の開校に伴い学校数が減り、これまで同様年間4校で回ると、学校への負担が大きくなってしまふ。これまでのペースを保つため、年間4校であったものを3校に減らし実施したいと考えているのだが、その方向で進めてよろしいか。(全委員承認)
それでは今年度の学校訪問について、教育総務課長から説明する。
- (高山教育総務課長) 今年度は、細谷小学校、古山小学校、南河内小中学校、国分寺中学校において学校訪問を実施する予定ということで、4月の教育委員会定例会において報告した。細谷小学校については

直近の実施であり、南河内小中学校については昨年度中止をした経緯があり、国分寺中学校については同日に出前教育委員会を実施するため、古山小学校における学校訪問を中止とし、来年度以降に実施することとしたい。また、古山小学校で石嶋委員に挨拶を頂く予定であったが、こちらも来年度にお願いしたいと考えている。

(石崎教育長)

質疑、意見等はあるか。(特になし)

それでは、他に事務局から連絡事項等はあるか。

(石島学校教育課長)

資料「下野市採択地区教科用図書採択事務日程」を基に、教科書採択事務の日程及び教科書選定に伴う教科書展示の日時及び場所の説明を行う。

(石崎教育長)

質疑等はあるか。

(永山委員)

教育研究所における教科書展示の時間帯を教えてください。

(石島学校教育課長)

開庁している時間帯であればいつでも見ていただける。また、事前に連絡をいただければご案内する。

(石崎教育長)

他に質疑等はあるか。

(川田委員)

南河内図書館の教科書センターについて、受付に声をかけてから向かったほうが良いのか。

(石島学校教育課長)

声をかけずに向かって問題はないが、もし受付に担当者がいれば、教科書センターで教科書を見る旨伝えていただけるとありがたい。

(石崎教育長)

他に質疑等はあるか。(特になし)

他に事務局から連絡事項等はあるか。

(根本生涯学習文化課長)

生涯学習文化課から二点報告する。まず、しもつけウインドオーケストラ第2回定期公演についてである。こちらの事業は教育委員会から後援を受け開催を迎えた。会場の1階にはおよそ500人が入場できるのだが、客席全体の半分ほどの来場者があった。1曲1曲選曲の理由を説明しながら演奏を行い、非常に盛況であり、また団員が40名になったということで、組織がより大きくなったという報告があった。なお、しもつけウインドオーケストラは市の文化協会の会員である。

続いて、太鼓ライブ「道草ドンドコ」についてである。こちらの事業はグリムの館の定期的なイベントとなっており、前売券の販売が既に始まっている。事業の宣伝も兼ねて案内する。

(石崎教育長)

質疑等はあるか。(特になし)

他に事務局から連絡事項等はあるか。(特になし)

それでは、教育委員の皆様から他に連絡事項等はあるか。

(永山委員)

二点ほど尋ねる。まず、学校の防犯体制についてである。昨今、学校へ侵入した不審者による事件が多く起こっている。不審者等に関する防犯対策として、どのようなことを行っているのか教えてください。

続いて奨学金についてである。2022年、奨学金が返せないという理由で自殺した方が10名いたという記事が、昨日の新聞に掲載されていた。そこで、下野市の奨学金の貸付けについて、返済状況がどうなっているか、滞納者はいないか教えてほしい。

(石島学校教育課長)

学校の防犯対策については、各学校の昇降口付近を映し出す防犯カメラの設置が、今年度の5月に完了した。各職員室にモニターがついており、門近くから昇降口付近までの様子を確認できる。今後、更に設置数を増やすかどうかを含め、検討をしていかなければならないと考えている。

各学校における防犯体制については、学校に関する事件が起きた際、学校長を中心に防犯に関する呼びかけを行っている。門の施錠、昇降口の施錠なども含め、教員が連携し、確認をしている状況である。

(永山委員)

以前、下野市の学校に警察の方が来て、防犯訓練を実施していたように記憶しているが、そういった訓練は続いているのか。

(石崎教育長)

警察と連携し、各校において不審者対応訓練を実施している。毎年3回避難訓練を実施するのだが、そのうちの1回で不審者対応訓練を行っている。詳細については、昨年度第4回の市議会定例会における一般質問で、不審者対応に関する答弁を行っているため、議事録等を確認してほしい。

(石嶋委員)

防犯カメラは24時間監視か。また録画データは何日分残るのか。

(石島学校教育課長)

防犯カメラは24時間作動しており、録画データは1週間保存される。

(高山教育総務課長)

奨学金に係る納付状況について説明する。現在、数か月分納めてないという者はいない。しかし、毎月納めていく中で、1か月ほど償還が遅れている者はおり、4月分については7名の償還が遅れている。今回償還の遅れが見られた者には、催促の通知を送付したところである。

(永山委員)

償還催促等についてはしっかり行うべきであるが、奨学金の返済苦による自殺者のニュースが新聞紙上で報告されている以上、もし長期滞納者などが出た場合には、ただ事務的に処理するのではなく、そういった事例もあるということを念頭に置き、対応してほしい。

(石崎教育長)

付け加えることはあるか。

(高山教育総務課長)

参考として伝える。滞納ではないのだが、諸事情により償還の延長を適用している者は現在3名いる。

(石崎教育長)

他に教育委員の皆様から連絡事項等はあるか。(特になし)
それでは、以上でよろしいか。(全委員承認)

(平野教育総務課課長補佐)

次回の教育委員会定例会は、令和5年7月18日(火曜日)

午後1時から、303会議室で開催を予定している。

9. 閉会

(石崎教育長)

以上をもって、令和5年度第3回教育委員会定例会を閉会する。

(午後4時10分閉会)

議事録作成者

議事録署名人

議事録署名人